| 遺跡No | 遺構種別 | 遺構No | 時期 | 説明 | グリッド | 形態 | 主軸 | 長さ | 幅 | 深さ | 付属施設 | 出土遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60-013 | 古墳 | 0001 | 6世紀 | 調査区北部に位置する。墳丘は削平され、周溝の1/4が残存する。周溝の最大径は約18mと想定される。周溝の上端の幅は181～210cm、下端の幅56～85cmを測る。断面形態は概ね椀型を呈する。 | — | — | — | — | — | 0.90 | — | 縄文深鉢、円筒埴輪、土師器坏・高台坏・甕 |
| 60-013 | 竪穴状遺構 | 0001 | 縄文時代中期 | 調査区の西端に位置する。1・2・4・7号土坑と重複する。平面形態は不整形の長方形状を呈し、西端は調査区外に広がる。床面はやや凹凸があり、壁はなだらかに開きながら立ち上がる。 | — | 不整形 | — | 3.40 | 3.30 | 0.62 | — | 縄文深鉢、土師器埦・甕、須恵器大甕 |
| 60-013 | 土坑 | 0001 | 縄文時代前期 | 1号竪穴状遺構と重複し、切られる。西端が調査区外に広がる。 | — | 楕円形 | — | 0.95 | 0.62 | 0.17 | — | 縄文深鉢 |
| 60-013 | 土坑 | 0002 | — | 1号竪穴状遺構と重複し、切られる。 | — | 楕円形 | — | 1.30 | 0.82 | 0.34 | — | — |
| 60-013 | 土坑 | 0003 | 縄文時代中期 | 4号土坑と重複する。 | — | 長方形 | — | 1.36 | 0.85 | 0.23 | — | 縄文深鉢、土師器甕 |
| 60-013 | 土坑 | 0004 | 縄文時代前期 | 1号竪穴状遺構、3号土坑と重複し、最も古い遺構と考えられる。 | — | 円形 | — | 1.78 | 1.66 | 0.45 | — | 縄文深鉢 |
| 60-013 | 土坑 | 0005 | 縄文時代前期 | 調査区の東端に位置する。遺構の西側部分には礫が多量に敷き詰められる状況が確認された。 | — | 楕円形 | — | 1.34 | 0.73 | 0.25 | — | — |
| 60-013 | 土坑 | 0006 | 縄文時代前期 | 1号墳周溝と重複し、切られる。 | — | 円形 | — | 1.15 | 0.60 | 0.60 | — | 縄文深鉢 |
| 60-013 | 土坑 | 0007 | — | 1号竪穴状遺構と重複し、切られる。 | — | 楕円形 | — | 1.75 | 1.00 | 0.72 | — | — |
| 60-013 | 土坑 | 0008 | — | 調査区内の南端に位置し、南側は調査区外に広がる。 | — | 楕円形 | — | 1.52 | 1.00 | 0.45 | — | — |
| 60-013 | ピット | 0001 | — | 7号土坑と重複し、切りあい関係はP1の方が新しい。 | — | 円形 | — | 0.68 | 0.68 | 0.54 | — | — |
| 60-013 | ピット | 0002 | — | 調査区東端に並んで位置する。P2からP3の間隔は約120cmを測る。 | — | — | — | — | — | 0.20 | — | — |
| 60-013 | ピット | 0003 | — | 調査区東端に並んで位置する。P3からP4の間隔は約140cmを測る。 | — | — | — | — | — | 0.20 | — | — |
| 60-013 | ピット | 0004 | — | 調査区東端に並んで位置する。 | — | — | — | — | — | 0.20 | — | — |
| 60-014 | 古墳 | 0001 | — | 調査区の南西側に位置する。検出された周溝は全体の1/4程度であり、それ以外は調査区外へと延びる。墳丘は既に削平されており、主体部及び盛り土の堆積状態は確認することができなかった。調査区範囲内での規模は、周溝内径約2.5m、周溝外径約4.0m、周溝の幅は約1.6～2.2mを測る。周溝はやや歪んだ円形を呈し、その形状から、墳丘長約6.2m程度の古墳であったと考えられる。南西部端の周溝内側からは、集石が確認された。いずれも角の丸い河原石であり、この検出位置を踏まえると、1号墳の葺石か石室を構築していた石材、特に裏込め石の一部である可能性が高い。 | — | — | — | — | 2.20 | 0.50 | — | 円筒埴輪 |
| 60-014 | 古墳 | 0002 | — | 調査区北東側に位置する。周溝は全体の1/4が検出され、残りは区外へと延びる。主体部及び盛り土の堆積状態は確認できなかった。調査区範囲内の規模は、周溝内径約3.5m、周溝外径約4.8m、周溝の幅は約0.9～1.4mを測る。 | — | — | — | — | 1.40 | 0.40 | — | 縄文深鉢、土師器小型甕・甕、焙烙 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60-260 | 古墳 | 0001 | — | 調査区の中央部に位置する古墳で、周溝は南東側から北西側にかけて延びる。墳丘は既に削平されており、主体部及び盛土の堆積状態は確認できなかった。調査区範囲内の規模は、周溝内径約2.5m、周溝外径約4.6m、周溝の幅は約1.5～3.2m。周溝は全体的にやや歪んだ円形を呈し、その形状から墳丘長約8.8m程度の古墳であったと考えられる。 | — | 円形 | — | — | 3.20 | 0.20 | — | — |
| 60-260 | 土坑 | 0001 | — | 調査区南側に位置し、土坑内部からは埴輪棺が検出され、この埴輪棺は計3個体の円筒埴輪を組み合わせたもので、棺長は約100cmを測る。 | — | 隅丸長方形 | — | 1.10 | 0.60 | 0.20 | — | 円筒埴輪 |
| 60-260 | 土坑 | 0002 | — | 調査区の北東側に位置する。 | — | 隅丸長方形 | — | 0.96 | 0.64 | 0.20 | — | — |
| 60-260 | 土坑 | 0003 | — | 調査区の北東側に位置し、1号古墳跡の周溝を上から切る。 | — | 円形 | — | 1.40 | 1.20 | 0.64 | — | — |
| 60-027 | トレンチ | 0001 | — | 古墳の東部に設定し、幅1.2m、長軸9mの範囲を調査した。トレンチ西端部で古墳の盛土構造が確認され、裾部で周堀と考えられる黒色域を検出した。確認された範囲で上端の幅約146～210cm、下端の幅約64～125cmを測る。断面形態は台形状を呈する。 | — | — | W-20°-N | 9.00 | 1.20 | 0.20 | — | 須恵器甕、かわらけ、焙烙 |
| 60-027 | トレンチ | 0002 | — | 古墳の南部に設定し、幅1.2m、長軸8mの範囲を調査した。トレンチ南部で周堀と考えられる黒色域が検出され、上端の幅約210cm、下端の幅約92cmを測る。断面形態は長方形を呈する。周堀からやや平坦面が広がるものの、トレンチ中央付近より徐々に立ち上がり、盛土構造が確認される。墳丘裾部付近には葺石とみられる礫群が広がる。 | — | — | N－27°-E | 8.00 | 1.20 | 0.45 | — | 須恵器甕、土師器壺、壺、かわらけ |
| 60-027 | トレンチ | 0003 | — | 古墳の西部に設定し、幅0.8m、長軸4.2mの範囲を調査した。上層約70～90cmは再堆積土であり、墳丘盛土構造は部分的に残存するのみであり、トレンチ3付近は大部分が削剥されていることが想定される。 | — | — | E-24°-N | 4.20 | 0.80 | — | — | 桟瓦 |
| 60-027 | トレンチ | 0004 | — | 古墳の墳頂部付近に設定し、幅1.2m、長軸4.7mの範囲を調査した。墳丘の断ち割りを行ったことで、盛土の堆積状況を確認できた。墳丘盛土は、墳丘中央部から裾側に向かって緩やかに傾斜しながら積み上げられている。墳丘中央部付近では、黄褐色主体の土と黒色主体の土を互層に積み上げる様子が見られた。 | — | — | W-33°-N | 4.70 | 1.20 | — | — | — |
| 60-027 | トレンチ | 0005 | — | 調査地の南西部に位置し、南北に伸びる土塁状の高まりの両脇に設定した。T5-1は、主軸方位W-19°-N、幅0.9m、長軸3.3mの範囲、T5-2は、主軸方位W-12°-N、幅0.8m、長軸5.2m、の範囲を調査した。T5-1では、現地表面から約112cmで地山となり、トレンチ中央付近に設定した深堀部分の隅において周堀の可能性がある立ち上がりを確認した。2～4層は東方城にかかる土塁状の盛土遺構と考えられる。T5-2では、土塁状遺構に沿って、東方城跡にかかる堀跡と考えられる遺構を調査した。底面が深く、現地表面から約90cmで土塁状の立ち上がりの一部が検出されたものの、中心部はさらに以深まで黒色堆積が継続することが確認されたため、そこで確認調査を終えた。 | — | — | — | — | — | — | — | かわらけ、須恵器甕、縄文深鉢、火鉢、塗付猪口、高台、台、軒桟瓦、焙烙、桟瓦 |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 60-027 | トレンチ | 0006 | — | 古墳の南東部に設定し、幅0.9m、長軸7.3mの範囲を調査した。墳丘側の現地表面から約70cmで葺石と考えられる礫群が検出され、裾部付近では約110cmで周堀と考えられる黒色域を確認した。周堀は上端の幅約110cm、下端の幅約45cmを測る。本トレンチは、墳丘裾部付近から外側を近世以降の撹乱による削剥を受けており、周堀の上層が失われているため、詳細は不明瞭であるが、トレンチ南西端から北東方向に緩やかに周堀が浅くなり、本トレンチ北東側付近で収束する可能性がある。本トレンチは、南西部を西側に約1.5m拡張しており、拡張部から井戸跡の可能性がある黒色域が検出された。確認面から1m程度掘削したものの、底面は確認されず以深に続くものと考えられる。 | — | — | N－5°－W | 7.30 | 0.90 | — | — | 縄文深鉢、土師器坏、棒状石器 |
| 60-027 | トレンチ | 0007 | — | 古墳の南西部、T5-1の北東側に設定し、幅1m、長軸4.2mの範囲を調査した。トレンチ南端部で南東から北西方向に伸びる周堀の可能性がある落ち込みを確認した。北部では、T2・T6で確認された礫群と同種の礫が散見され、土層堆積状況としては古墳の墳丘構築土は下層に部分的に残存するのみであることから、東方城の土塁構築時に古墳墳丘が崩された可能性が考えられる。 | — | — | N－32°－E | 4.20 | 1.00 | — | — | 土錘 |